

沖縄の未来を創る

沖縄県立那覇国際高等学校 2年生 大湾 優月

二〇三〇年。東京オリンピックの十年後、私たちは大人になっています。働き盛りの世代です。親になっている人も居るでしょう。二〇三〇年、私たちはどんな暮らしをしているのでしょうか。

みなさんは、「沖縄二十一世紀ビジョン」というものを知っていますか。沖縄二十一世紀ビジョンとは、将来（二〇三〇年頃）の沖縄のあるべき姿と、その実現に向けた具体的な取り組み、私たち県民や行政の役割を表した計画のことです。沖縄県にとって、はじめての長期的な構想でもあります。

二十一世紀ビジョンの基本理念は、「時代を切り拓き、世界と交流し、共に支え合う平和で豊かな「美ら島」おきなわ」を創造することです。二〇〇八年から、アンケートや高校生の作文コンクールで集めた県民の意見を集約し、沖縄が目指すべき五つの将来像に分類しています。そしてそれぞれの将来像ごとに、実現のための課題とその対応方法や戦略が記されています。

私が興味を持ったのは、二つ目の将来像「心豊かで、安心・安全に暮らせる島」です。この将来像には、健康・長寿の復活、安心・安全な暮らし、個性豊かな地域社会づくりの三つのテーマがあります。中でも特に、「個性豊かな地域社会づくり」に着目しました。私は、この目標の解決には、繁多川という地域の「あたいぐわープロジェクト」が良いモデルになると思います。

私が住む繁多川というところは、那覇市のはずれにあります。井戸や戦前の石垣など多数の指定文化財があり、青年会なども盛んで地域の繋がりがとても強い、古くからの歴史と伝統がある地域です。また、昔から湧き水が豊富で、豆腐作りが盛んでした。「あたいぐわープロジェクト」とは、沖縄の在来種である「青ヒグ」という大豆の栽培から、伝統的な豆腐作りをしようというプロジェクトです。

このプロジェクトは、公民館と地域住民が中心となり、毎年地域の小中学校で豆腐づくりを指導しています。特に、「すぐりむん」と呼ばれる優れた知識や技術をもつ地域の高齢者が中心となって行われています。つまりこの活動は、地域文化の伝承だけでなく、世代を超えた交流や、高齢者の活躍の場にもなっています。

少子高齢化や地域社会の薄れが広がる今、このような活動で高齢者が活躍できることは、地域の活性化に繋がると思います。そしてこの活動は、「地域の資源を掘り起こして磨き上げ、それを地域の宝・財産として共有していくこと。そして住民が主体的に活動していくことで「共助・共創型のまちづくり」を目指す」という課題にぴったり当てはまっているのです。

二十一世紀ビジョンを実現し、成功させるためには他に何が大切か、私なりにも考えてみました。

沖縄県だけでなく、他の都道府県や様々な企業も、同じように長期的な目標を掲げています。

マネジメントで有名なピーター・ドラッカー氏の言葉に、「経営者が第一になすべきことは、現存の資源を用いて最高の成果をあげること」というものがあります。これを二十一世紀ビジョンに置き換えると、青い海や美しいサンゴ礁、エイサーや三線などの伝統芸能、方言など、今沖縄にあるものを大切にし、後世に伝え、さらに発展させていくことだと思います。

そしてもう一つ、「未来を予測する最良の方法は、未来を創ること」という言葉があります。つまり、沖縄の未来はどうなっているだろうとただ考えるだけでなく、地域の活動に積極的に参加したり、沖縄の伝統や文化に触れ、もっと沖縄について学んだり、一人一人が沖縄の未来を考え、主体的に行動することが求められています。

沖縄の将来のために、今ある課題を一つ一つ乗り越えていくことで、二〇三〇年、誰も想像しなかったような明るく活気溢れる沖縄が待っているかもしれません。まずは自

分の住む地域から、そして沖縄、日本、世界へと視野を広げ、明るい未来を創るために
できることを、一人一人が考えていく必要があります。